

力強く魅力的な産業を育て雇用を創出する

商工業振興

●商工業者の後継者問題。商工業者が年々減少し日本の活力を奪っている。利益を生み出せる企業の創出、商売をしたいという人と市内の後継者難の企業のマッチング。(お試し就業)

●輸出促進のための海外でのプロモーション活動の強化

●大学生などで市外に出ていった子ども達に対して、地元に戻ってこなくていいと思っている親が多い。原因は良い就職口がないこと等。

●長岡市にヨネックス、山口県にユニクロ、南魚沼市に〇〇〇というような、破格の待遇での企業誘致があってもいい。

農業振興

●産業集積が少ない、ニッチトップ、中核的な企業が限られているが、逆にきらりと光る技術や商品を持った企業がある。どんな形で産業を振興していくのか検討が必要。

●南魚沼市はこの地域の官公庁の中心地と位置づけられる。もっと企業誘致などでPRすべき。経済の中心地ではないかもしれないが、行政の中心地になり得る。そこに働く人がいれば消費がある。

●評価されるべきものを、世界に向けたブランディングする必要性。

●産業界と連携したキャリア教育(長期インターンシップ制度の創設)

林業振興

●どの分野の産業でも生産性を上げるのが重要。市内の一人当たりの総生産を上げるために、どの業種を伸ばしていけばいいのかデータを見ながら議論すべき。

●起業家を育成するシステム(起業家育成スクール)を構築

●医療、大学、CCRCと関連して企業誘致の面から浦佐駅の有効活用(シェアオフィス等)を検討すべき。

●設備資金融資(マイナス金利)⇒3,000千円以上10,000千円以下を対象とするマイナス金利の設備資金創設

●産学官コーディネーターによる企業と大学のマッチング支援

雇用の促進

●Iターン者、特にICTが生活の一部となった人々を呼び寄せることが重要。
Iターン者、特に「クリエイティブクラス」を呼び込むことにより新しい風が入り、街が活性化

●「人」、「場」、「食」=コワーキングスペース、シェアオフィス、滞在型宿泊施設、食文化の高い街⇒環境整備+まちづくり会社の設立

●①新潟県中小企業創業支援資金利用者への保証料補填
②事業用不動産の固定資産税を3年間限度に50万上限で免除
③南魚沼市未来の起業家応援事業補助金の創設

地域資源を活用し新しいひとの流れをつくる

移住・定住の促進

地域・都市間交流推進

観光交流推進

●南魚沼市から新潟市等への通勤スタイルも働き方の一つの提案。雇用・産業など、すべて南魚沼市の中で完結しなくてもよい。暮らしが成り立てばいいし、人が集まることで新しいマーケットができ、事業が増えることが重要。

●素晴らしい文化と感じているもの⇒越後上布雪さらし、鳥追い、わら細工職人

●グルメライド、グルメマラソン等地域資源のPR、移住の促進に有効。人の流れを生む1万人規模のイベントの育成と継続。

●観光振興策の強化(外国人旅行者の取組強化、公共交通網再構築、Wi-Fi環境整備)

●生活する上での自然(環境)を好きになる方法を考えるべき。

●人口が増えるという事は「まちの魅力」、「まちづくり」の結果。
●市民アンケートの雇用や高齢者福祉の要望が高いのはどの自治体も同じ。むしろその下の省エネ・新エネ、観光、農業、学校教育、住環境、商工業等を掘り下げて考えるべき。
●人口減少に困っていない自治体のデータとの比較により、出て行った人がなぜ戻ってこないのかを研究し、まちの魅力を上げUターンとIターンが増えるまちとするべき。

●地方版の総合戦略には他地域から人を奪ってくる側面がある。他との競合に対し、いかに地域の魅力づくりをして人を増やすか。南魚沼市の魅力を再確認して発信していくことがポイント。

●若年層にとって「南魚沼市が魅力的な街」に見えるためにはなにをするべきなのか。

●南魚沼市民が共感できる大胆な戦略が必要。

●既存にとらわれない新しい政策を打ち出さなければ2060年43,000人維持は難しい。

若い世代が暮らしやすい環境づくりをすすめる

妊娠・出産・子育て支援

教育環境充実

結婚支援

仕事と生活の調和

●女性のM字型就業によるキャリアの喪失問題。女性の再就職とキャリアが継続する仕組みづくり。

●第3子を生んだら100万円(県200万円)併せて300万円出すといった取組は人の注目を集め効果があるのではないか。財源は独身の若い人に税金を上乗せする。

●仕事ばかりではなく、賃金やワーク・ライフ・バランス、休暇や育児休業が取れるといった仕組みづくりが重要。

●年少人口を増やしていかないと限り、まちを維持していくことは不可能。そのために初等教育、中等教育に重点政策を置くべき。この地で育った子どもが将来このまちを担っていくという循環を作る。

●結婚支援(近隣の企業と連携した婚活事業の実施)

●大学の定期的な高校生向けオープン講座の開催(学力向上)

●多くの子どもや人々が、地域の宝や資源を学んでいく仕組みづくり。

●東京などのいわゆる「バツイチ」の人が、南魚沼で出会いがあって結婚して、もう1人産んでもらうようなアイデアがあっていいのでは。

●市外者からは学力の低い地域、就職先のない地域とみられているのではないか。

●放課後等、市民・高齢者等ボランティアが学びを提供(地域の文化・歴史等の学びも提供)、ポイント制度を導入によりボランティアに還元するシステムを構築。

●子どもは社会全体で育てていくという認識に立たないと増えない。

●地域に感性を上げる文化的な施設が少ない。魅力を感じるものがあれば、自然にこの地に戻ってくる。外から呼んでくることも大事だが、一度(進学等で)出てもいいから、戻ってくことで人口が維持できる。

●子育て支援(保育料等軽減、子育て支援協賛店舗制度創設、子育て世帯向け優良賃貸住宅供給)

●地元の誇りの部分があまり意識されていないのではない。知らないだけで、周知していけば、地元に対する気持ち(愛着心)が変わる。

協働と連携による効率的な都市経営をすすめる

計画的な土地利用

効率的な都市経営

循環型社会の推進

広域連携

協働のまちづくり

●近隣自治体と連携して総合戦略を進めていくことも重要。

●中心市街地の活性化(ゾーニングによるコンパクトシティづくり、人口集中地区の設定、空き店舗対策、六日町駅前再開発、サービス付き高齢者向け住宅)

●都市のコンパクト化、周辺ネットワーク形成(湯沢ー六日町ー浦佐、湯沢ー六日町ー十日町の電車の深夜運行(代替バスの運行)、市民バス利便性向上、ララ(図書館)の駅ビルとしての機能強化)

●イベント等の取材先で友人や知り合いに会ったことがない。